

2016年3月27日イースター礼拝 主日礼拝説教（要旨）

聖書 ルカによる福音書第24章36～49節

「復活の主に心開かれて」

日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

主イエスが復活された日曜日の夜の事です。エマオの村からエルサレムに引返した二人の弟子が、自分たちの経験したことを仲間たちに報告し話し合っているところに復活の主は来られ、「あなたがたに平和があるように」と言われました。ところが、彼らは恐れおののき亡霊を見ているのだと思いました。十字架で死んだイエスの霊が現れたと思ったのです。けれども、主イエスは言われます、「なぜ、うろたえているのか、どうして心に疑いを起すのか、わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおりに、わたしにはそれがある」（38-39節）。

主イエスはただ霊としてではなく、からだをもって復活されました。死んだ人の霊が弟子たちのそばに現れたのではなく、あの十字架で死なれたお方が、「まさしくわたしだ」と言って、からだをもって弟子たちに姿を現されたのです。これは私たちの理解を超える出来事です。私たちは合理的な解釈をしてそのつまずきを取り除くことはできません。ただ、多くの弟子たちが証言し、その事実によって弟子たちが再び立ち上がることができ、その弟子たちによって教会が生まれたという出来事を受け入れるほかないのです。

「わたしの手や足を見なさい」と言われ、「手と足をお見せになった」というところから、私たちはヨハネによる福音書20章の記事を思い起こすことができるでしょう。弟子たちがユダヤ人たちを恐れて自分たちのいる家の戸に鍵をかけてこもっているときに、主イエスが来て真ん中に立たれ、「あなたがたに平和があるように」と言われ、手とわき腹をお見せになったという場面です。ルカの記事はあのヨハネの記事と重なっているように思われます。そして、ヨハネによる福音書ではその後、「わたしたちは主を見た」という仲間たちの報告を聞いても信じなかったあのトマスが続いています。しかしその1週間後、今度はトマスも弟子たちと一緒にいるところに復活の主が姿を現され、トマスの前に立ち、「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と言われたのでした。復活の主は十字架の傷跡の残るからだをもって復活されたのでした。

ルカはトマスの話は書いていませんが、それに代えて、他の福音書にはない興味深い報告をしています。弟子たちは「喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていた」のですが、そんな弟子たちに主イエスは「ここに何か食べる者があるか」と言われ、弟子たちが「焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた」というのです。主イエスが焼き魚を食べて見せられる光景は何ともユーモラスです。復活の主イエスは戦いに勝利された栄光の主です。けれども、復活の主は私たちのふだん飲み食いをする生活から離れた高尚な場所に立たれたものではありません。焼き魚というのは日常生活の臭いがしますが、主はそのような私たちの生活の中に入ってきてくださったのです。

復活の主イエスについて報告している福音書は、どれもなかなか信じられない弟子たちの姿を描いています。それは復活が人間の思いを超えたつまずきに満ちた神の御業だから

です。そして、注意すべきことは、弟子たちは主イエスが手足を差し出されたから信じる
ことができたというのでもなく、焼いた魚を食べるのを見せられたので信じる
ことができた
と書いているわけでもありません。それらの出来事は、弟子たちの思い出の中に深く刻
みこまれることになったのですが、それによって信仰が呼びさまされたと書いてあるの
ではありません。弟子たちの心の目が本当に開かれていくのは、聖書に記された神の約束の
言葉が解き明かされることによってです。

「わたしについてモーセの律法と預言者と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現す
る。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである」(44 節)。主
イエスは彼らの心の目を開いて、聖書を悟らせようとされます。実際に目の当たりにした
主イエスの苦難と十字架、そして復活が、まさに聖書の告げていたことであり、神の救い
のご計画であり、みこころであったことが解き明かされるのです。それによって彼らの心
の目は開かれていくのです。エマオへの道を復活の主と共に歩いた弟子たちも、主が聖書
の言葉を解き明かされたとき、心が燃えるのを覚え、やがて食卓でパンを裂いてくださる
復活の主気づかされたのです。私たちは目で見ることによって信じるのではありません。
誰かが何かを証明してくれて信じるのでもありません。聖書の言葉が私たちの心を燃やし、
私たちを信仰へと導いてくださるのです。

そこでさらに、主イエスは弟子たちに「わたしは父が約束されたものをあなたがたに送
る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい」(49 節)と言われました。
復活後 40 日間は、復活の主ご自身が折々に姿を現して語りかけてくださいましたが、その
後はもう主のお姿を見ることはできなくなります。しかし、高い所からの力が授けられる
のです。すなわち、御言葉とともに働く聖霊が私たちの心を開き、復活の主を信じて生き
るようにしてくださるのです。

ペンテコステの後、私たちはただ聖霊の導きによって復活の主を信じる時代を迎えます。
けれども、それは心細いことでも不確かなことでもありません。後にペトロは、教会の人
たちに書き送った手紙の中でこう言っています。「あなたがたは、キリストを見たことがな
いのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあ
ふれています」(ペトロ 一 1:8)。ペトロは、キリストを直接見ることはない世代の人々
の中にすばらしい信仰が生まれてきていることを認めて驚き、感謝しているのです。私た
ちも今、聖霊によって、このように復活の主を信じて歩む喜びの中に召されているのです。